

第4節 サウジアラビア、UAE、エジプトの紅海への関与

小林 周

(1) サウジ、UAE、エジプトの紅海への関心

サウジアラビア、アラブ首長国連邦（UAE）、エジプトは、それぞれ紅海沿岸地域に対する強い戦略的な関心のもとに、関与を強化している。

まずサウジアラビアは、緊張が高まるイランと相対するペルシャ湾へのエネルギー輸出や経済産業の集中を避け、紅海への関与による経済・安全保障面での機会拡大やリスク分散を求めてきた。1981年にはホルムズ海峡を迂回する送油・ガスルートである「東西パイプライン（East-West Pipeline）」が完成した。同パイプラインは2016年時点で計480万バレル／日（b/d）の輸送能力、100万～280万b/dの余剰送油能力を持つとされる。また、2017年10月にはサウジ北西部の紅海・アカバ湾沿岸に産業都市「NEOM」を設立する計画を発表した。同都市は2025年に「第一段階」が完了する予定である。

UAEは国土が直接紅海に面しているわけではないが、港湾開発を通じた経済・軍事面での進出を積極化させている。2016年5月、UAEはソマリランド政府との間で、アデン湾に面するベルベラの港湾開発について合意し、さらに軍港設置の許可も得た。2017年4月には、ドバイに拠点を置くP&O Ports社がソマリア内部のプントランド自治政府と、ボサソ港の開発について合意した¹。さらに同月、UAEがソマリランドの治安部隊を訓練する計画があると報じられた。これらのUAEの動きをソマリア連邦政府は警戒し、2018年3月、UAE系企業DPワールドとの港湾開発に関する契約案破棄に言及するなど、関係は緊張している。軍事面では、サウジ・UAEが主導する対イエメン作戦のため、イエメンのスコトラ島、エリトリア南部のアッサブ港、ソマリランドのベルベラ港などに軍事拠点を構築している²。エリトリアのアッサブ港は、サウジアラビアにも利用されている模様である。

エジプトは、スエズ運河およびシナイ半島の安全保障・経済開発、紅海～地中海における港湾開発の観点から、紅海に対して戦略的な関心を抱いている。「アラブの春」以降の政治的混乱と経済的停滞、シーシー（‘Abd al-Fattāh al-Sīsī）政権（2014年6月～）による国内でのテロ・治安対策への注力などを理由として、紅海への軍事的な関与は目立たなかったものの、サウジやUAEの紅海進出への協力が観察されている。2018年1月、エジプトはスーダン政府がトルコによるスアキン島での港湾開発に合意したことに反発して、エリトリアのアッサブにあるUAEの基地に軍を派遣した。このエジプトの動きにスーダンが反応し、東部のエリトリアとの国境カッサラを封鎖し、軍隊を配備する動きに出た³。

2019年4月、スーダンでは軍の離反によってバシール（‘Omar Ḥassan Aḥmad al-Bashīr）政権が崩壊したが、その直後にサウジとUAEがスーダンに対して30億ドル相当の援助を

約束したと報じられた(本章まえがき参照)⁴。また、移行政府である暫定軍事評議会の議長・副議長は初の外遊先としてエジプトと UAE を訪問、その後サウジも訪問するなど、これら3カ国との関係強化がうかがえる。

サウジ、UAE、エジプトによる紅海への関与に共通する目的としては、経済利益の拡大に加えて、地域におけるトルコ、カタル、イランの影響力排除という安全保障上の利益が挙げられる。例えば2017年9月、トルコはソマリアに国外最大規模の海外基地を建設した。1万人以上を訓練可能だとされるこの基地は、トルコとの関係が冷却化するサウジ、UAE、エジプトにとっては大きな軍事的圧力になっている。さらに同年12月、トルコはスーダンのスアキン島で軍事基地建設も含めた大規模開発を行うと発表した。この開発事業にはカタルも参画すると報じられた。バシール政権の崩壊によってこの計画の実施見込みは不透明になったが、もし完成すれば、紅海におけるトルコの戦力投射能力が格段に高まることになる。イエメン内戦の観点からは、イランとフーシー(Hūthi)派との連携、およびフーシー派拠点からのドローンやミサイルによる攻撃は、サウジ・UAEへの直接的脅威となっている。また、サウジとUAEはバシール政権崩壊後のスーダンに介入することで、スーダン国軍のイエメン派兵継続を企図していると指摘される。

サウジ、UAE、エジプトは紅海周辺で頻繁に軍事演習を行っている。2019年1月、サウジ、エジプト、ヨルダン、イエメン、スーダン、ジブチはサウジ領海で合同演習「Red Wave 1」を行った。3月には、エジプトとフランスによる合同演習「Cleopatra-Gapian 2019」が行われた。7月から8月にかけて、サウジ、UAE、エジプトは米国と共同で合同演習「Eagle Salute - Eagle Response 2019」を行った。9月、エジプトとサウジはサウジ領海で合同演習「Red Wave 2」を行った。10月、ヨルダン・エジプト海軍は合同演習「Aqaba 5」を行った。

2020年1月、リヤドに紅海・アデン湾沿岸7カ国(サウジ、エジプト、ヨルダン、スーダン、ジブチ、ソマリア、イエメン)の外相が集まり、「紅海・アデン湾沿岸アラブ・アフリカ諸国会議(Council of Arab and African Coastal States of the Red Sea and the Gulf of Aden)」の設立憲章に署名した⁵。実質的な機能や役割については本稿執筆時点では不透明だが、同会議を通じてサウジが紅海における影響力を高めようとする意図が見て取れる。

(2) 各国の利害や関与政策の乖離

上述の通り、サウジ、UAE、エジプトは紅海沿岸地域に対する関与を強めている。ただし、これら3カ国の利害や関与政策が常に一致するわけではない。各国の安全保障環境、地政学的条件、地域諸国との関係は異なるし、紅海沿岸アフリカ諸国の側も域内での対立・協力関係や独自の利害関係を抱えているからだ。

例えば、エジプトが抱えるナイル川流域の水資源問題がある。サウジとUAEは長年対立関係にあったエチオピアとエリトリアの関係改善に協力しており、2018年9月、エチオピ

アのアビイ・アフメド・アリ（Abiy Ahmed Ali）首相とエリトリアのイサイアス・アフェウエルキ（Isaias Afwerki）大統領はサウジでサルマーン（Salmān bin ‘Abd al-‘Azīz Āl Sa‘ūd）国王仲介のもと「ジェッダ平和協定」に署名した。エチオピアとエリトリアの和平は、アビイ首相のノーベル平和賞獲得（2019年10月）やエリトリアの経済制裁解除につながり、エリトリアに軍事拠点を置くUAEにとっても好ましい環境をもたらした。

しかし、サウジ・UAEのエチオピア接近は、エジプトにとっては好ましい状況ではない。エチオピアは2011年からグランド・エチオピアン・ルネッサンス・ダム（Grand Ethiopian Renaissance Dam: GERD）と呼ばれる巨大ダムの建造に着手しており、完成の暁には、エジプトの年間流量の90パーセントに相当する740億m³の貯水量を持つことになる（第2節参照）⁶。ナイル川の最下流に位置するエジプトにとっては、GERDの完成・稼働は自国の水利権、ひいては国家安全保障を脅かすことにつながる。エジプトが抱える水資源問題とエチオピアとの緊張をサウジ・UAEが重視しない状況に、エジプトは不満を募らせている。

また、地政学上の要衝に位置するジブチには、2018年10月時点で米、仏、伊、日、中が基地や拠点を設置しており、地域の安全保障環境における重要性が高まっている。そのジブチは2016年4月の安全保障協力合意の締結⁷などによってサウジとの関係を強化する一方で、UAEとの関係は悪化している。この背景には、ジブチ・エリトリア間の政治対立にもかかわらずUAEがエリトリアとの関係を深めていることがある。2018年5月、ジブチ大統領府はUAE系企業DPワールドとの港湾開発・運営に関する契約を破棄すると発表

表1 サウジアラビア、UAE、エジプトの紅海への関与

	サウジ	UAE	エジプト
スーダン	バ希尔政権崩壊後、暫定軍事政権の支持と30億ドルの援助を表明。スーダン暫定軍事政権のNo.1・2はイエメン派兵の責任者。就任直後にエジプト、UAE、サウジを訪問。		軍・情報機関のチャンネル構築。エジプトは暫定軍事政権への支援を表明。
ソマリア		UAEはソマリランドなど州政府を支援。ベルベラやボサソに軍港・港湾を建設、治安部隊の訓練を実施。連邦政府とは対立、援助を停止。	
ジブチ	2016年4月、安全保障協力合意を締結。サウジ軍事基地の建設計画。	ジブチと対立するエリトリアを支援するUAEとの関係は悪化、2018年5月、DPワールドの港湾運営事業の契約を破棄。	
エリトリア	サウジはエリトリア・エチオピア和平を仲介。2018年9月「ジェッダ平和協定」を締結。	UAEはエリトリア・エチオピア対立を仲介。アッサブに軍港を建設（30年間租借）。	
エチオピア		UAEは30億ドルの経済支援を表明（2018年）。エチオピア・エリトリアP/Lの建設計画。	ナイル川の水資源問題で、最上流国エチオピアのダム建設などを警戒。

（出所）各種報道をもとに筆者作成。

し⁸、UAE側は強く反発した⁹。

(3) エジプトの動向：中東・北アフリカ・紅海の狭間で

最後に、本稿で取り上げた3国の中でもエジプトの紅海への関与について分析したい。なぜなら、同国は紅海沿岸諸国に対してサウジやUAEとは異なる関与の仕方をしており、また湾岸ではなく北アフリカの一国として、前述のナイル川流域問題のように独自の利害関係を持つためである。

例えばエジプト・スーダン関係は、約1,300 kmにおよぶ国境をもつ隣国同士であり、英国とエジプト王国によるスーダンの共同統治（1889～1956年）や、「ハライブ・トライアングル（Halaib Triangle）」をめぐる領土問題などを背景として、古く複雑な歴史を持つ。ナイル川の水資源問題に関して、スーダンはエジプトと同様にナイル川の下流に位置するものの、水力発電による電力供給、ナイル川氾濫の緩和、流量のコントロールによる農業生産量の増加など、GERDによって得られる恩恵を重視しており、エチオピアとの関係は良好である。

このような状況下、2018年7月にシーシー大統領はスーダンを訪問し、バシール大統領（当時）と二国間の経済協力や貿易拡大について協議した¹⁰。両国は上述のGERD建設に対する姿勢の違いや領土問題、スーダンによるムスリム同胞団支援の歴史などをめぐり、関係は良好ではなかった。また、トルコやカタールとの関係についても両国は対照的である。しかしエジプトは、GERDをめぐるエチオピアとの交渉を有利に進めるためにスーダンを取り込む必要があり、これまでの両国の軋轢を乗り越える契機となった。この点において、2019年4月のバシール大統領退陣は、エジプトにとってスーダンとの関係改善の強力な追い風となった。

また、エジプトとスーダンの軍部・情報機関による協力関係も強化されている。2018年7月、エジプト・スーダン政府は、リビアで武装勢力に拘束されていたエジプト軍兵士を救出する合同作戦を実施したと発表した。また作戦後、エジプト軍からスーダンの情報機関に対して謝意が示された¹¹。これらは前述のシーシー大統領によるスーダン訪問の直後に起きたことから、両国の接近の象徴的な事例とみることができる¹²。バシール政権崩壊後のスーダンにおいて軍部が移行プロセスの実権を握ったことは、同じく軍部の政治的影響力が強いエジプトのシーシー政権にとっても好都合であったといえる。

エジプトは中東・北アフリカ・紅海沿岸諸国の結節点にある国として、各地域における政治・治安の不安定化の影響を受けやすい環境に置かれている。他方で、サウジやUAEとは異なり、豊富な資金力によって影響力を行使しているわけではなく、むしろ湾岸産油国から財政支援を受ける立場にある。そのため、エジプトは政治的・経済的利益を引き出すためにサウジ・UAEと連携しつつも、ナイル川の水資源問題など国家安全保障に直結する

問題では独自に行動し、戦略的利益を追求しているように見える。また、ソマリア、ジブチ、エリトリアといった直接的な利害関係を有しない紅海沿岸諸国への関与を行うだけの関心や余力は現時点で持たないのだろう。

— 注 —

- 1 “Somalia: Puntland signs deal to develop Bosaso Port with Dubai,” *Garowe Online*, April 6, 2017 <<https://www.garoweonline.com/en/news/puntland/somalia-puntland-signs-deal-to-develop-bosaso-port-with-dp-world>>, accessed on January 20, 2020.
- 2 堀抜功二「UAE 軍がイエメンのソコトラ島に進駐」『中東研ニューズリポート』日本エネルギー経済研究所中東研究センター、2018年5月8日 <https://jime.ieej.or.jp/report_text.php?article_info__id=10313> 2020年1月20日アクセス。
- 3 Mohammed Amin, “Gulf tension: Are Egypt and Sudan about to go to war?” *Middle East Eye*, January 13, 2018 <<https://www.middleeasteye.net/news/gulf-tension-are-egypt-and-sudan-about-go-war-turkey-qatar-dam-ethiopia-muslim-brotherhood-903070654>>, accessed on January 20, 2020.
- 4 “Saudi Arabia, UAE to send \$3 billion in aid to Sudan,” *Reuters*, April 21, 2019 <<https://www.reuters.com/article/us-sudan-protests/saudi-arabia-uae-to-send-3-billion-in-aid-to-sudan-idUSKCN1RX0DG>>, accessed on January 20, 2020.
- 5 “Foreign Ministers of Arab and African Coastal States of the Red Sea and the Gulf of Aden Sign Charter of the Council of Arab and African Coastal States of the Red Sea and the Gulf of Aden,” *Saudi Press Agency*, January 6, 2020 <<https://www.spa.gov.sa/viewstory.php?lang=en&newsid=2019799>>, accessed on January 20, 2020.
- 6 西舘康平「ナイル川流域における利水・治水開発とその政治性:エチオピアの GERD 建設を事例に」『中東研究』第529号(2017年5月)53-70頁。
- 7 “Saudi Arabia, Djibouti Sign Security Cooperation Agreement,” *Ekhbariya*, April 17, 2016 <<http://www.alekhbariya.net/en/node/11932>>, accessed on January 20, 2020.
- 8 “Djibouti ends Dubai’s DP World contract to run container terminal,” *Reuters*, February 23, 2018 <<https://www.reuters.com/article/us-djibouti-ports-dp-world/djibouti-ends-dubais-dp-world-contract-to-run-container-terminal-idUSKCN1G62HE>>, accessed on January 20, 2020.
- 9 “Djibouti has broken the UAE’s trust,” *Khaleej Times*, February 24, 2018 <<https://www.khaleejtimes.com/editorials-columns/djibouti-has-broken-the-uaes-trust>>, accessed on January 20, 2020.
- 10 “Sisi concludes two-day visit to Sudan amid foreign media blackout,” *Middle East Eye*, July 20, 2018 <<https://www.middleeasteye.net/news/sisi-concludes-two-day-visit-sudan-amid-media-blackout-1081668198>>, accessed on January 20, 2020.
- 11 “Five Egyptian troops held hostage in Libya freed: Sudan security,” *The New Arab*, July 30, 2018 <<https://www.alaraby.co.uk/english/news/2018/7/31/five-egyptian-troops-held-hostage-in-libya-freed>>, accessed on January 20, 2020.
- 12 なお、Mada Masr は複数の匿名の情報筋を引き、救出されたエジプト軍兵士らはスーダン軍のリビアへの介入に関する情報収集活動の最中に、チャドの武装勢力に拘束されたと報じている。当初シーシー大統領のハルトゥーム訪問は2018年10月に予定されていたが、バシール大統領が兵士の扱いについて早期の協議を要求したため、7月に前倒しされたという。同紙はこれらの経緯から、今回の合同救出作戦は、スーダン政府にエジプトに対する政治的アドバンテージを与えたと述べる。“Abduction and release of Egyptian intelligence unit points to proxy fighting in south Libya and early July meeting in Khartoum,” *Mada Masr*, August 2, 2018 <<https://madasr.com/en/2018/08/02/feature/politics/abduction-and-release-of-egyptian-intelligence-unit-points-to-proxy-fighting-in-south-libya-and-early-july-meeting-in-khartoum>>, accessed on January 20, 2020.

